

令和7年度学校図書館活用実践報告

新潟市立小林小学校

1 小林小学校図書館教育のねらい

図書館の利用指導や読書指導を通して、望ましい読書の習慣や図書利用の態度を身に付ける。

2 児童の実態と課題

(1) 読書センターとして

①昨年度の読書量について

- ・令和6年度の貸出冊数は16,394冊で、一人平均は約105冊。前回の活用推進事業時期（令和3年度）の平均約127冊に比べると、およそ20冊減っていることが分かる。

②児童の読書傾向について

- ・年度当初、休み時間の図書開館時に借り替えに来る児童は一週間で数名程度だった。
- ・図書の時間や朝読書では、学習マンガ、雑誌、図鑑以外の本を読むように指導している。
- ・図書の時間では、ほとんどの児童が、自分の読みたい本を自分で選ぶことが出来る。全学年の児童が、20分間程度は座って静かに読書することが出来ている。
- ・低学年では「パンどろぼう」や「大ピンチ図鑑」シリーズやヨシタケシンスケの本、中高学年では「グレッグのダメ日記」「3分間ミステリー」「5分後の意外な結末」シリーズなどが人気である。担任が読み聞かせで紹介した「はれぶた」「パンダのタンタン」シリーズなどを、予約を入れて積極的に借りる姿も見られ、紹介された本を良いと感じたり、気に入った本を繰り返し読んだり、同著者作品へと意識を広げたりする姿も見られる。厚い本を読む高学年も多い。



図書委員による読み聞かせ

(2) 学習センター、情報センターとして

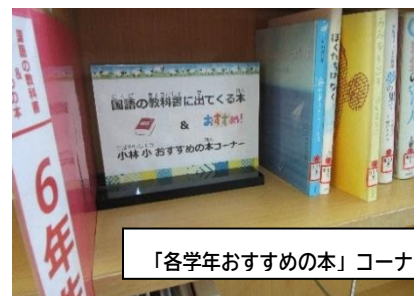
- ・探求場面での情報の探し方や資料の活用の仕方が十分に育っていない。
- ・タブレットに頼り、本を使って情報収集しようとする児童が減っている。
- ・インターネットからの限定的な不確実な情報と、紙媒体からの広くて信頼性の高い情報との価値の違いについて理解していない児童が多い。

3 今年度の取組

(1) 読書センターとして～読書の幅を広げ、読書量を増やすために～

①白小・小林小共通の「おすすめの本リスト」(20冊)の整備 [白根第一中学校区・小中連携]

- ア ねらい…・小学校時に共通の本を読んでおくことで、中学校へ進学した際の共通の話題の一つとする。
- イ 環境整備…・各学年ごとに、おすすめの本と教科書関連本を集めた書架配置をした。
 - ・全校児童に図書ファイル(A4版PPフラットファイル)を作成し、進級ごとにおすすめの本リストを綴じていく(卒業まで使用)。
- ウ 方法…・おすすめの本を借りた児童がその本を返却する際に、シールを貼る。20冊完読した児童には修了証を渡している。また、月一



「各学年おすすめの本」コーナー

回発行の図書館だよりや、図書館壁面の「読書の木」に、修了者の名前を掲示することで、取組の推進をしている。

- ・長期休業中の5冊貸し出しの際、児童は「おすすめの本リスト」や教科書に載っている本を必ず1冊借りることとした。

② 白小・一中・小林小の「おすすめの本紹介」 白根第一中学校区・小中連携

ア ねらい…読んだ本やその感想を、同じ中学校区内学校で紹介し合うことを通して、コミュニケーションの場を広げる。

イ 方法…①《校内》全校児童が、「おすすめの本紹介カード」を書く。

②《校内》縦割り班16班で「紹介カード」を用いて本紹介を行い、班で代表を決定する(計16冊)。

③《校内》「紹介カード」を本とともに図書館に展示する。

④《連携》「白根小学校」「白根第一中学校」に、「紹介カード」のカラーコピーをそれぞれ8枚ずつ届け、感想をシールで参加してもらおう(「この本を読んだことがありますか?」「この本を読んできたくなりましたか?」)。



全校児童「おすすめの本」廊下掲示

【児童の様子】

- ・《校内》全校児童の「おすすめの本紹介」は、学習参観時に一齐に廊下掲示をして、保護者から見てもらえるように日程を合わせた。縦割り班で選ばれた「おすすめの本」のカードと16冊が図書館に展示されると、たくさんの児童が借りにきた。



縦割り班で1冊「おすすめの本」選出



選ばれた本とカードの展示

- ・《連携》中学校から届いた「ポップ(本の紹介文)」と本(学校司書が他図書館等から手配)が展示されると、学年問わず、多くの子が興味をもって紹介カードを読んでいた。「中学校の図書館にはこんな本があるんだね。」「厚くて文字がいっぱいだけれど、面白そう。」などと話しながら、感想シールを貼る様子が見られた。普段触れることがない中学生向けの本を身近に感じられたよい機会だった。特に6年生にとっては、中学校への意識が高まった取組となった。



中学生のおすすめの本カードに感想シールを貼る



③ 子どもたちのアイデアを生かしたイベント活動・常時活動

《春の読書週間 6月16日～20日》

今年の図書委員会のスローガン「また来たくなる図書室をつくろう」

- ア 期間中は、5冊まで貸し出し可能。
- イ 「読書くじ」の実施…休み時間に本を借りたらくじが引ける。←「とにかく休み時間に来てほしい！」図書委員のアイデア
- ウ 図書委員による「読み聞かせ」

【児童の様子】

- 一週間で合計173人が読書くじを引いた（全校児童の82%）。毎日借り換えに来る子どもも多数いた。翌週からは一桁代に落ち込んだが、それでも「休み時間に図書館に行こうかな。」という選択肢の意識づけにはなった。
- △「全部読んでないのに借りたり返したりしている人がいた。」（図書委員談）

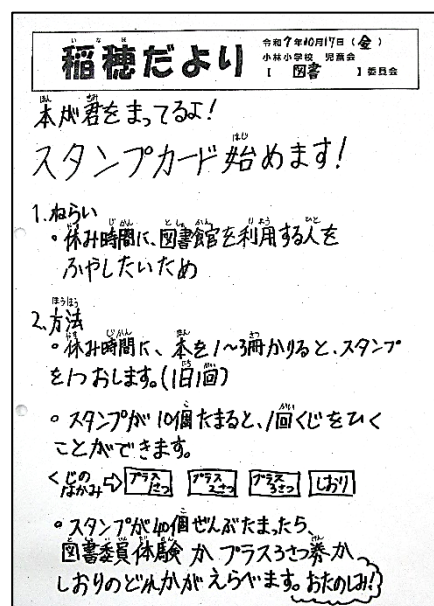
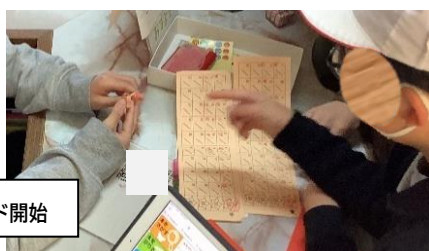


《読書週間の振り返りから生まれた「スタンプカード」の取組》

- ・子どもたちの懸念通り、読書週間の後は休み時間に来館する子が減った（一週間で数名）。7月の図書委員会でそのことが話題になり、「お店のように、スタンプカードを作ったらどうだろう」という案が出た。全員が「それはいい！」という話になり、「10個たまったら、こんな案はどうか。」「カードが全部埋まったら、こうしたら？」とアイデアが次々に出た。新企画のため、職員や全児童への周知を図り、後期始まりに合わせて「スタンプカード」をスタートさせた。

【児童の様子】

- 一週目の来館数はおよそ150人程度で、読書週間にせまる多さとなった。翌週以降は減ったものの、「休み時間の過ごし方の一つとしての図書館利用」を意識づけるよい機会となった。自分たちのアイデアから、持続できる常時活動を新設できたことは、子どもたち自身にとって大きな自信につながった。



《秋の読書週間 11月25日～28日》

- ア 期間中は、5冊まで貸し出し可能。
- イ 「読書ゆうびん」の実施
 - ・児童自身が紹介したい本を、規定のハガキに書いて、相手あてに投函する。
- ウ 「スタンプカード」ポイント2倍
- エ 縦割り班で選出された「おすすめの本」の紹介放送（図書委員）



【児童の様子】

○「読書ゆうびん」は、秋の読書週間の恒例行事として定着している。縦割り班の異学年宛てとクラスの子宛てを含めた2枚以上出すことにしている。一週間で601枚やりとりすることができた（一人平均3.5枚）。書き方や文面等にかかわったトラブルはなく、今年も、全校児童がマナーよく楽しむことができた。

△図書委員の負担が大きかった。

「カウンター当番」「中学校から来たPOP展示の案内」「紹介放送」「読書ゆうびんハガキの回収・ハンコ押し・配達」を図書委員11名がほぼ毎日休みなく当番活動する必要があった。図書館に来る人数は多かったものの、マナーの悪い言動をする児童も見られた。各担任や図書館担当による指導が必要となった。

○図書委員の振り返りでも、「毎日バタバタしていた。」「居心地のいい図書館ではなかったと思う。」という意見が出たため、1月に実施していた「カルタ・百人一首大会」の実施について再検討することにした。「別の教室で大会を運営しながら、図書館を開けるのは難しい。」「図書館での親切な貸し借りを優先したい。」などの意見から、「カルタ・百人一首大会」は中止することにした。「例年やってきたから今年もやる。」ではなく、今年のみあて「また来なくなる図書館をつくろう。」に立ち返って活動しようとする姿は大いに評価できる。



(2) 教員と図書館連携による「学習センター」「情報センター」としての取組

① 学校図書館年間活用計画の作成

- ・昨年度、国語の教科書が変わったため、大幅変更が必要となった。各学年ごとに、教科書の指導計画やこれまでの利用実績をもとに、学校図書館活用計画を作成した。実施時期、教科、必要な図書資料など具体的に記載し、担任と学校司書が授業の準備に活用することができた（別紙・年間活用計画参照）。
- ・図書館予算で、国語の教科書を全学年分購入した。司書教諭が各学年の教科書に教科書関連単元や本の紹介ページに付箋を付け、学校司書が気軽に教科書内容を確認できるように整備した。







② ユニバーサル図書の展示 ※図書支援センター「オレンジBOX」利用

- ・春の読書週間に合わせて、「誰でも読書を楽しめる本」として、点字の本や、大きな文字の絵本、布製の本、リーディングルーペなどバリアフリーにかかわる図書の陳列や、気軽にできるバリアフリー体験コーナーを設置し、「いいね。」「役に立つな。」「大切にしたい。」と思うものにシールを貼ってもらう活動を行った。
- ・布の本の手触りを確かめながら「折っちゃっても大丈夫だし、破れないから、小さい子も楽しみながら読めるね。」と笑顔で話している子がいた。読書の幅を広げるよい機会になった。
- ・その後、「りんごの棚」として常設展示を行っている。



② 各学年の授業実践

・活用計画をもとに、調べ学習を実践した。

学年	教科	活用内容	活動している様子
1 学年	国語	<p>「のりものカード」をつくろう</p> <p>国語「いろいろなふね」では、ふねの「やく目」と「つくり」に着目して読み取る活動を行った。その後、乗り物の本を活用し、自分が選んだ乗り物についても2つの観点から調べることにした。見つけたページは iPad で写真を撮り、「やく目」と「つくり」が書かれているところに線を引き、「のりものカード」にまとめた。</p>	
2 学年	国語	<p>「どうぶつカード」を作ろう</p> <p>国語「ビーバーの大工事」ではビーバーの秘密を読み取った。学習の後に、好きな動物の秘密を調べるために、図鑑等を活用して「知りたいこと」「本で調べて分かったこと」を動物の絵と共にまとめた。</p>	
3 学年	総合	<p>「凧や大凧合戦にまつわる新聞づくり」</p> <p>大凧と歴史の館見学や凧作りや凧揚げ活動、地域の遠藤さんからの話を聞いた学びをもとに、大凧合戦や凧に関する図書や iPad での検索等を利用しながら、学んだ内容や知らせたい内容を取捨選択しながら新聞にまとめて書く活動を行った。</p>	
	国語	<p>「調べたことを整理してレポートに書こう」</p> <p>身の回りの道具から調べたいことを選び、本やインターネットを使って詳しく調べる。調べて分かったことを整理してレポートにまとめた。</p>	
4 学年	国語	<p>「新見南吉はどんな物語を書いたのだろう」</p> <p>作者である新見南吉の本を教室に置き、並行読書を行った。また、学校司書による新見南吉の生い立ちに関するクイズなどを通して作者や作品に対する理解を深めた。</p>	
	総合	<p>「身の回りの福祉についてまとめよう」</p> <p>まちのユニバーサルデザインや点字などについて書かれた本を活用し、身の回りの福祉について調べ、まとめた。</p>	
5 学年	理科	<p>「川と災害」</p> <p>南区の水害について調べ、自分の地域の水害対策について提案した。調べ学習時には、天気・水害にかかわる本・図鑑、南区総務課より取り寄せてもらった南区ハザードマップ・防災 DVD・防災訓練用プレゼン・インターネットなどを活用した。</p>	
	国語	<p>「和の文化を発信しよう」</p> <p>和の文化の中から興味のあるもの一つを選び、市内図書館から集めてもらった和の文化に関する本で詳しく調べ、キャッチコピーや解説を入れたポスターを Canva で作った。</p>	
6 学年	国語	<p>「発信しよう、私たちの SDGs」</p> <p>SDGs の項目から気になるテーマを選択し、図書館教材を使って調べ学習を行い、違うテーマについて調べている人と分かったことを伝え合う活動を行った。その後、理科の「人と環境」の単元で、調べた内容を改めて扱い、学習を深めた。</p>	

	社会 「戦争と人々の暮らしを調べよう」 戦争に関して自分の選んだテーマについて図書館 教材で調べ学習を行い、ロイロノートにまとめた。	
--	--	--

(3) 図書館司書同士の交流・連携

① 三校分の図書館だよりの掲示

- ・白根第一中学校、白根小学校、小林小学校の三校で図書館だよりを送りあい、それぞれの図書館内や廊下に掲示して、お隣の学校の図書館の様子や取組が見られるようにした。

② 情報交換および情報センターとしての資料整備

ア 図書館の見学と情報交換

- ・学校司書が互いの図書館（計3か所）を見学し、本の置き方の工夫や季節ごとの展示の工夫や、各校の読書傾向などについての情報交換を行った。

イ 中学校区での分類表示の統一

- ・小林小学校の分類の表示を参考に、三校の分類表示を統一することにした。図書館同士が表示を揃えることを通して、子どもたちが中学校に進学した際、ストレスなく図書館を活用することができるようにした。

学校司書による展示の工夫



ウ 地域資料「しろね大風合戦資料所蔵一覧」の整備

- ・令和2年度に、白根第一中学校区と味方中学校区で所蔵している各学校にある資料（本、マップ等）を「しろね大風合戦資料所蔵一覧」をエクセルデータにまとめている。本年度は、その地域資料の現物確認と整備を行った。

4 成果と課題

(1) 成果

- ・年度当初は、一週間に数名程度しか休み時間の図書館利用がなかったのだが、12月末現在においては、休み時間ごとに数名来館するようになった。毎日行くことをめあてにしている児童もちらほら見られる。学校司書による季節ごとやイベントに合わせた展示の工夫、図書委員による「スタンプカード」開始など、「また来たくなる図書館をつくろう」という共通の意識が、児童の「今日は休み時間に図書館に行こうかな。」という気持ちを引き出している。引き続き、図書館に足を向けるきっかけづくりや、居心地がよい場づくりに努めていく。

「ブックトラック」



(2) 課題

- ・iPad 導入に伴い、調べ学習での図書利用率が減ったことは否めない。確実に信頼できる情報源という強みを生かし、必要な情報を適したところから得るスキルを身に付けさせるためにも、図書を使った情報収集の力を身に付けさせたい。
- ・白根小・小林小共通の「おすすめの本リスト」（20冊）の整備がまだ完了していない。昨年度、国語の教科書が変更したことに伴い、教科書に載っている本や関連題材が大幅に変わったが、昨年度のうちに整備に着手していなかった。各校での対応や三校での連携が不足していたことが原因である。校内における司書教諭と学校司書との連携はもちろん、小中連携においても、今年度のように三校の学校司書が互いの学校を行き来し、気軽に情報を交換していくような体制を持続していきたい。